

2017年4月30日 金井誠

【JHF 活動履歴】

教員検定員  
山形県連会長

【JHF 定款への理解】

ある程度理解している

【立候補意思表明】

パラグライダーと出会って早30年。本当に楽しい日々を過ごさせて頂きました。この素晴らしいスポーツを少しでも良い環境で次の世代へ引き継いでゆきたいと思い理事に立候補致しました。

私の考える良い環境とは、スカイスポーツが立派なスポーツの1つとして認知され、多くの老若男女がフライトを楽しんでいる社会です。

その実現の為に、何よりも事故を減らすことだと思います。悲惨な事故が1件起こればその人だけでなく周りのフライヤーも辞めてゆきます。何より新しく始めようとしていた人が始めなくなります。世間からは危険で迷惑な集団と嫌われ、追い出されてゆきます。逆に事故が無くなれば飛びたい人は必ずやってきます。自分が安心して楽しめていれば友達を誘ってきます。人が集まれば地域社会も見る目が変わってきます。私が人口の少ない東北地方に於いて地味でもスクール専業でやって来られたのは事故によって辞めなければならない人がいなかったお陰と実感しています。

フライヤー会員は勿論、スクーリングやエリア管理の先頭に立つ教員・助教員の皆さんへの実際の安全に役立つ情報提供、講習会などを通じて、技術・知識のブラッシュアップ、安全意識を高めてゆくことを最優先に取り組んでゆく必要があると思います。特に地方に情報が行き渡るような機会を作り、技術を普及してゆくことが求められていると思います。

教員として毎日、講習とエリア管理をしている経験やプロショップを経営している知識が少しでも役に立つように頑張りたいと思います。

次に社会への貢献とアピールを積極的に行いスカイスポーツのイメージアップを図ることも大切だと思います。良いイメージが定着すれば、それだけ飛びたい人は最寄りのスクール・クラブへの門を叩きやすくなります。佐賀のバルーンフェスティバルのように地域社会に貢献してゆけば自治体の理解も協力も得られやすくなります。フライト禁止やエリア閉鎖の危機からは遠のき、地域がフライトに便宜を図ってくれるようになります。

体育協会、観光協会での活動やスカイフェスティバルの開催、障害者フライトなど今まで地域で取り組んできた事を活かして少しでも社会貢献やイメージアップに役立つように頑張りたいと思います。